

学年：1年 | 単元名：0.くらべたことがあるかな おおいはどっちかな

1. 単元目標：(全1時間)

○幼児期に育った数や量への関心・感覚を想起して、算数の学習への期待を持つ。

考判表・数を量としてとらえようとする。

- ・順序数と計量数のちがいを考えることができる。

知・技・

・

2. 指導内容

- ・
- ・

3. 指導のポイント

○量の感覚を養う。

- ・数を順序数だけでなく、計量数としてもとらえることができるようにする。
- ・子供の生活上では、「数字」と「順序」は、結びついていると考えられる。
- ・「数字」と「量」を結び付ける必要がある。
- ・比較から測定へ

「どちらが多い(大きい)」→「どちらがどれくらい多い(大きい)」

ここに数字がつかわれていることを知ることによって「量」を意識できる。

○比較の方法

- ・同じものを比べる：ドングリの数・積み木の数・ジュースの量
- ・1対1の対応で比べる(違うものの比較)：消しゴムと筆箱・大きいテープと小さいテープ

4. 指導にあたって

- ①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。
- ②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて(作業・知る・考える)

○計量数としてとらえる。(P1/2)

P1 T:どちらが多い。なぜわかるのかな?

- ・同じものを比べる。どんぐり(わからない)・つみき(高さ)・ジュース(コップの量)

P2 ○どちらがどれだけ多い。T:どうやってみつけたのかな?

- ・ペン:同じものを比べるから、数を数えればいい。
- ・テープ:大きいテープと小さいテープを組み合わせると小さいテープが、6個あまる。だから小さいテープの方が6個多い。
- ・消しゴムと筆箱:筆箱に消しゴムを1つずついれていくと、消しゴムが3つあまる。だから、消しゴムの方が3つ多い。

○「どちらがどれだけ多い」の見つけ方。

Ex. 消しゴムの場合

T:消しゴムは、いくつありますか。→C:5つ

T:どうやって数えましたか。→C:1. 2. 3. 4. 5

T:えっ。おかしいですね。1. 2. 3. 4. 5

1つを指して、「5」おかしいね。これは「1」とちがうの？

先生が数えてみるよ。1. 2. 3. 4. 5.

先生の「5」は、これですよ。あなたの「5」はこれですよ。

おかしいね。なぜこんなことがおこるのでしょ。

C:いろいろ意見を出させる。→まとめる。

T:何を数えているかという順序を数えているのですね。

1番、2番、3番、4番、5番 5番目まで数えたから全部で5個あるということですね。

※順序数と計量数の意味のちがいをしっかりおさえる。

十進位取り記数法は、順序数と計量数が一致しているので便利である。

1. 「あたらしいさんすう1-①」の教科書の取り扱い方

①教科書は、学習した後のまとめとして使う。

②すべてブロックを使って考えさせる。

2. 「あたらしいさんすう1-①」の教科書の内容の取り扱い方

①順序数と計量数の区別を明確にする。

②数は、「形」と「場所」でおぼえる。

○○○○○
○○○○○

③具体物→半具体物(ブロック)→数図(○図)→数字 を結び付ける。

④10までの数の「形」と形を使っての「合成・分解」

⑤ブロックは、結果ではなく過程が大事。

1過程ずつ区切っておさえていく必要がある。

⑥フラッシュカードを使って、数を認識させる。

数図と形→数と形

最終目的は、数を念頭操作すること。

すなわち数をブロックで思い浮かべ、頭の中で操作できること。